

巻 頭 言

21 世紀の生産技術への 対応をめざして

取締役 明石光生



先般、自動車技術という雑誌に掲載された 2025 年の自動車生産技術予測調査報告*を読む機会がありました。25 年すなわち 4 半世紀後にはこのような新しい技術で自動車が生産されているであろうという期待も込めた予測を纏めたものです。その中には、ネットシェイプ高精度化技術による殆どの自動車部品の機械加工レス化、専用金型を必要としない NC 制御金型プレスシステム、自己修復機能を持つ設備、摩擦の極低減技術の開発によるベアリングに代わる摺動部品、半永久的に摩耗しない工具、等 80 項目が挙げられています。

本報告の生産技術は、現在のシーズと社会的なニーズから予測されたと思われませんが、遡って見れば、25 年前あるいは 50 年前には想像もできなかったことが今日では実現されているものが沢山あること、ならびに産業のグローバル化の更なる進展に伴い益々加速されるであろう開発スピードを考慮すると、これら予測された多くの技術の実用化もかなり現実味を帯びてきます。不二越は軸受、油圧などの車載部品、ならびに加工工具、加工機械システム、産業用ロボットを通して自動車生産技術に貢献しております。このように自動車産業への依存度が高い弊社にとって、これらの生産技術予測は非常に興味深いばかりでなく、将来の我々の進むべき一つの方向を示しているとも思われます。

弊社では市場戦略を基に中長期的な目標をたて、その目標を実現するための開発シナリオを作り、随時その目標を見直しながら開発を進めています。経営環境の厳しい昨今は、ともすれば当面の対応に追われ短期視野で目標設定しがちな面がまま見受けられますが、そのような開発からは一歩先を行く商品や次の時代を担う商品が生まれてきません。我々にとって 25 年後は超長期の分類に入りますが、そのような時代の到来を念頭に置きながら中長期的な開発シナリオを組み立て、コア技術・基盤技術となり得る新たなシーズ技術を育成していく必要があると考えています。そのために、21 世紀へ飛躍するための技術開発ワーキンググループ活動を重点分野ごとに展開し始めたところです。そのような活動の中から、顧客ニーズを先取りした価値ある商品を目指して新しい目標と開発テーマを設定していこうと思っております。

自動車産業では、調達グローバル化や部品のモジュール化の動きが強まり、環境、省エネルギー、安全などに対する取り組みは以前にも増して益々高まってきています。このような中で、我々は生産技術変革の動きをビジネスチャンスと捉え、これまで各事業分野で培ってきたシーズ技術を融合し、さらに発展させながら、それらの動きに対応できるような開発活動を進めていきたいと考えています。今後とも不二越の益々のご愛顧をよろしくお願い致します。

*自動車技術、Vol.53、No.12、1999